

学ぶとは。考えるとは。

Handai-Asahi 中之島塾

朝日カルチャーセンターとの共同講座。入会金は不要です。大阪大学の第4キャンパス、大阪大学中之島センターで開講します。知識を吸収しながら問題を発見し考察する力も養います。

- 会場／大阪大学中之島センター（大阪市北区中之島 4-3-53）
 - 定員／各講座による。随時受付中ですのでお問い合わせください。
 - 申込先・問合せ先／朝日カルチャーセンター
- TEL.06-6222-5224**
- 主催／大阪大学 21 世紀懐徳堂、朝日カルチャーセンター

共通テーマで大阪と京都を掘り下げる。

大阪・京都文化講座

2017 年度 前期

大阪大学大学院文学研究科・大阪大学 21 世紀懐徳堂・立命館大学文学部の共催講座。大阪・京都の自然・風土・地誌・都市空間について考え、今後の課題・問題点についても提起します。今期のテーマは「大阪・京都の『一大事』—災害・動乱・革新—」です。

- 会場／立命館大阪梅田キャンパス（大阪富国生命ビル 5 階）
- 定員／各回 100 名（申込先着順）
- 受講料／1 回 1,700 円（全 8 回以上一括申込の場合 12,000 円）
- 申込方法／「申込書」に必要事項を記入の上、メール・FAX・郵送、いずれかの方法でお送りください。〒530-0018 大阪市北区小松原町 2-4 大阪富国生命ビル 14 階立命館大阪オフィス
- FAX.06-6360-4894 osaka-kz@st.ritsumei.ac.jp 受講申込受付後、「受付確認書」「郵便払込票」を送付しますので、受講料を納付（郵便払込）願います。
- 問合せ先／立命館大阪オフィス TEL.06-6360-4895

●肩こりの原因とその解消法

菅本一臣（大阪大学大学院医学系研究科教授）

5月27日（土）10:30～12:00
受講料 1,620 円

肩こりは国民の体の悩みの中で 20 年以上にわたり頻度第一位、それだけ多くの方が肩こりに悩まされているのでしょうか。ではなぜ肩こりがおきるのか？ 肩の筋肉が固まっているから？ 背骨が曲がっているから？ 姿勢が悪いから？ 世間ではいろいろなことが言われていますが、これらは原因にはなりません。今回の授業では、肩の構造、そのどこが原因で肩こりが起きるのか（肩こりのメカニズム）について映像を使って説明したいと思います。簡単な予防トレーニングについてもお話しします。

●3.11 後の原発～政治は何を決めたのか

上川龍之進（大阪大学大学院法学研究科准教授）

6月3日（土）10:30～12:00
受講料 1,620 円

福島第一原発事故の後、「脱原発」を求める声が高まります。だが民主党政権では、「脱原発」と「原発維持」とで意見が対立し、政策転換は不十分なものととまります。一方、第2次安倍内閣は、原子力を「重要なベースロード電源」と位置付け、「原発回帰」の姿勢を見せます。しかし、原発の再稼働はなかなか進まず、原発の新増設の決断も先送りされています。なぜ「脱原発」も「原発回帰」も進まないのか。その理由を考えます。

●古代語の謎を解く

蜂矢真郷（大阪大学名誉教授・中部大学教授）

6月3日（土）13:30～15:00
受講料 1,620 円

日本の古代のことばについて、形や意味を変えたりもしながら現代でも用いられているものを中心に、その語の成り立ちや由来を考えます。あまり根拠のない語源説のようなものではなく、国語学の語構成を研究する立場から、いろんな語の表すところと迫ります。多くの語を合わせて比べてみると分かってくることもあります。分かりにくいことに迫る時には謎解きのようなおもしろさが、その由来に迫る時にはルーツを探るようなおもしろさがあるでしょう。（取り上げることばは毎回変わります）

●織田作之助の〈坂田三吉〉

斎藤理生（大阪大学大学院文学研究科准教授）

6月17日（土）13:30～15:00
受講料 1,620 円

小説家の織田作之助と、棋士の坂田三吉。2人は20世紀前半の大阪を代表する人物です。ほとんど字を読めなかったという坂田は、作之助やその作品を知らなかったと思われまいます。しかし作之助は坂田を敬愛し、小説や随想でしばしば取りあげました。この講義では、作之助が坂田をどのように描いたのか、そして坂田を描くことを通して何を世に訴えようとしたのかについて考えます。

●留学生の立場からの日本留学について考える

有川友子（大阪大学国際教育交流センター教授）

6月24日（土）10:30～12:00
受講料 1,620 円

大阪大学では多くの留学生が学んでいます。この講義では、大阪大学全体で学ぶ留学生の概要についてや、国際教育交流センターが行っている留学生に関わる教育、また学生間の交流や地域との交流の取組について紹介します。留学に関わる長期的観点の研究などから見えてきたことについてもお話しします。この講義を通して、受講者の皆さんと一緒に留学生の立場からの日本留学について考えたいと思います。



WEBからの申込みも可。

Handai-Asahi 中之島塾

検索

会社帰りにちょこっと寄り道。ラボカフェ

参加者が自由な議論を行う対話型プログラムです。

- 会場／アートエリア B1（京阪中之島線なにわ橋駅地下 1F コンコース）
 - 定員／各回により異なります。（当日先着順・入退場自由）
 - 問合せ先／大阪大学 21 世紀懐徳堂
- TEL.06-6850-6443 info@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp**

参加費無料

4月21日のみ
参加費 300 円

●ラボカフェスペシャル featuring サーチプロジェクト オープニングトーク「ニュー」コロニー／アイランド "3〜わたしのかなたへ〜"

4月2日（日）16:00～18:00

アートエリア B1 では、当館を活用してアートや知の可能性を探求（＝search）する企画展「サーチプロジェクト」を 2011 年から開催しています。2015 年からは、「ニュー「コロニー／アイランド」と題して、3 年に渡るアート&サイエンスのシリーズ企画を展開。シリーズ最終回の本年は、「ニュー「コロニー／アイランド」3〜わたしのかなたへ〜」と題して、私たちの体のなかにある細胞などの営みに着目した展覧会を開催します。本展では、プロジェクトメンバーに、細胞が自己成分を分解し再利用する機能「オートファジー」の研究者である吉森保氏、2015 年に開催した同シリーズ初回の展覧会「島」のアート&サイエンスとその気配」のプロジェクトメンバーである、アーティストのや

んツー氏、建築ユニットの dot architects をお迎えします。オープニングトークでは、この三者が集い、それぞれの視点から本展のテーマである「わたし自身」の内にある、巨大な宇宙と似て非なる未知なる世界（彼方）について考察します。定員：50 名程度 ゲスト：吉森保（大阪大学大学院生命機能研究科／医学系研究科特別教授）、dot architects（建築ユニット）、やんツー（アーティスト） カフェマスター：木ノ下智恵子、久保田テツ、塚原悠也（アートエリア B1 運営委員）

●第 10 回ひとこといちば「BUMP OF CHICKEN で考える哲学」

4月7日（金）19:00～20:00

ひとこといちばとは大学の外の「ひと」と大学で行われている「こと」を繋ぐフリートークイベントです。第 10 回は大阪大学 医の倫理と公共政策学教室より戸谷洋志先生にお越しいただきます。固苦しく難しい、というイメージを持たれがちな哲学ですが、その目的は複雑な世界の本質を露わに

することです。すると、人生観や恋愛観など複雑なものを表現する「歌・音楽」という身近な取り組みと密接したものと考えられないでしょうか？ そこで今回は「ポップで考える哲学」の著者として話題の戸谷先生をお招きして、簡単な哲学カフェをしてみます。テーマは幅広い世代に愛される日本のバンド、BUMP OF CHICKEN。「K」「天体観測」「カルマ」「魔法の料理〜君から君へ〜」「Ray」など新旧入り交ざった名曲を題材に、彼らの一見難解で胸に響く世界から哲学の入口に触れてみましょう。定員：50 名程度 ゲスト：戸谷洋志（大阪大学医の倫理と公共政策学教室特任研究員）カフェマスター：若林魁人（大阪大学大学院基礎工学研究科）、近藤成美（大阪大学大学院理学研究科）

2017 年 5 月以降の予定は随時 HP に掲載。

ラボカフェ アートエリア B1

検索

●「平安時代」の終焉—「平安」でなかった平安京—

杉橋隆夫（立命館大学文学部名誉教授）

5月15日（月）14:00～15:40
受講料 1,700 円

平安京は、美称とは裏腹に、数々の政争や戦乱に悩まされ続けた都市であった。特に保元・平治の乱は未曾有の内乱（治承・寿永の乱）に連続し、「平安時代」の終焉を促す重要な意義を持った。葉子の変から承久の乱まで、京をめぐる戦乱を回顧し、「平安」から「鎌倉」へ、時代の転換を論じたい。

●上方落語・危機一髪

金水敏（大阪大学大学院文学研究科教授）

5月22日（月）14:00～15:40
受講料 1,700 円

戦前、爆笑王・桂春団治を中心に、大いに隆盛を誇った上方落語であったが、戦後は「上方落語は死んだ」とまで言われる状況にまで落ち込んだ。その状況を立て直したのが、「四天王」と呼ばれる六代目笑福亭松鶴、三代目桂米朝、五代目桂文枝、三代目桂春団治であった。

●平安京を襲った大火災 —炎の連鎖の中に生きた人びと—

片平博文（立命館大学文学部特別任用教授）

5月29日（月）14:00～15:40
受講料 1,700 円

平安京では、「火事」は一瞬のうちにすべてを灰燼に帰してしまうと恐れ恐ろしい災害として認識されていた。ここでは安元の大火（太郎焼亡、1177 年）や建長の大火（1249 年）を手がかりに、

火災の驚異的な広がりや速さや、発生時の自然的条件、火に直面した人びとの具体的行動などを歴史地理学的な視点から捉えてみたい。

●えらいこっちゃ、こら一大事や！—大坂の幕末—

高島幸次（大阪大学招へい教授）

6月5日（月）14:00～15:40
受講料 1,700 円

嘉永七年（1854）、天保山沖にロシア船「ディアナ号」が現われ、大坂の幕末は始まった。安政の大地震に続き、文久の政変や長州出兵の余波が押し寄せ、天誅による生首は市中に晒され、民衆は「ええじゃないか」に踊り狂う。狂騒の大坂にタイムスリップ！

●江戸開府は京都の一大事？

中本大（立命館大学文学部教授）

6月12日（月）14:00～15:40
受講料 1,700 円

織田信長・豊臣秀吉の天下統一を経て、ふたたび京の町に人々の視線が集まって東の間、その後を継いだ徳川家康は江戸に幕府を開き、再び朝廷と幕府が遠く隔たることになる。京の人々は家康の京都からの離反をどのように見ていたのであろうか、そしてなぜ家康は京都を離れる選択をしたのであろうか。「イメージ戦略」をキーワードにこの問題に立ち向かってみることにしよう。

WEBからの申込みも可。

大阪・京都文化講座

検索

●ラボカフェスペシャル&プロジェクト・ミーティング「アートと生存日々の表現、そして向き合い方」

4月21日（金）19:00～21:00
参加費 300 円

アートという、自分には関係がない、高尚なもの、趣味のものと考えられる方も多いと思います。けれど、「表現」としたときには、わたしたちの暮らしや関係のなかにあるものとして捉えます。では、日々の表現にどのように向き合っているのでしょうか。それはアートにつながるのでしょうか。「アートと生存」というシリーズで開催してきたプロジェクト・ミーティングでは、今回、人間行動学者の細馬宏通さんをゲストにお迎えし、参加者のみなさんとのびのびと対話をしてみたいです。定員：20 名程度 ゲスト：細馬宏通（人間行動学者） カフェマスター：上田假奈代（詩人・ココロム代表理事）、木ノ下智恵子（アートエリア B1 運営委員） 共催：「大阪でアーツカウンシルを考える会」

●プロジェクト・ミーティング「事務局のクリエイティビティ #09」

4月26日（水）19:00～21:00

京都市中京区にある総合芸術施設「京都芸術センター」は、昭和 6 年築の元明倫小学校を改修し、2000 年に開設しました。それまで多くの自治体運営の文化施設が貸館事業を軸にしていたのに対して、同センターでは、芸術の創造拠点としての機能に重点を置き、現在、展覧会、茶会、伝統芸能、音楽、演劇公演やワークショップなど多彩なイベントを開催しています。「事務局のクリエイティビティ」第 9 回は、京都芸術センターの開館時からアート・コーディネーターとして伝統芸能やアーティスト・イン・レジデンス等の事業を担当され、現在は、チーフプログラムディレクターとして、事業の統括をされている山本麻友美さんをゲストにお迎えします。伝統芸能から先鋭的な表現活動まで幅広い事業を展開する京都芸術センターの活動と、それを支える事務局について、また、これまで山本さんが関わられてき

●EXPO'70 大阪万博の時代と大阪の前衛美術

橋爪節也（大阪大学総合芸術博物館教授）

6月19日（月）14:00～15:40
受講料 1,700 円

1970 年に大阪で万博が開かれて 50 年近く経つ。作家小松左京は、大阪万博は単なる見本市ではなく文化による戦後復興の象徴とし、海外との交流や街づくりなど大阪に活気をもたらした。戦後美術の動向も踏まえながら EXPO'70 大阪万博について回顧する。

●東京奠都とその後の京都

山崎有恒（立命館大学文学部教授）

6月26日（月）14:00～15:40
受講料 1,700 円

明治維新という大変動が一番大きな打撃を与えたのは間違いなく京都の町だった。人口の八割近くが流出し、火が消えたようになった京都の町をどう立て直すか、その課題を担った町衆たちは「米百俵」をスローガンに立ちあがるが…。明治天皇東京移転前後の京都を舞台に繰り広げられた、町衆たちの面白くも悲しい物語についてお話ししたい。

●大塩事件—鎮圧にかかわった武士—

岩城卓二（京都大学人文科学研究所准教授）

7月3日（月）14:00～15:40
受講料 1,700 円

天保 8 年（1837）2 月、大坂町奉行所の元与力大塩平八郎が門弟たちと蜂起した大塩事件。蜂起した側から語られることが多い大塩事件であるが、本講演では鎮圧で功を上げ、人生が大きく変わった幕府代官所役人の視線から、大塩事件の意味について考える。

た様々なプロジェクトをご紹介いただきながら、事業を支える事務局のあり方を考えます。定員：30 名程度 ゲスト：山本麻友美（京都芸術センター チーフプログラムディレクター） カフェマスター：木ノ下智恵子（アートエリア B1 運営委員）、川口万喜、飯川恭子（アートエリア B1 事務局）



主催／アートエリア B1【大阪大学+NPO 法人ダンスボックス+京阪ホールディングス（株）】
企画制作／大阪大学 21 世紀懐徳堂、NPO 法人ダンスボックス